

古民家の野外博物館

旧民家園だより

平成3年度第3号

通号第26号

発行 4.3.31

川崎市立日本民家園

川崎市多摩区掛形7-1-1

電話 (044)922-2180~1

印刷 株 エイシン

明治後半期の豪壮な二階建、旧原家住宅

◆ 旧所在地

川崎市中原区小杉陣屋町1丁目561番地

原家の所在した小杉陣屋町は、江戸時代の武蔵国橋樹郡小杉村に属し、村内には江戸の虎ノ門を起点として相模国の中原村の平塚宿に通じる中原往還（中原街道）が東西に走っていた。当時の小杉村は、多摩川の傍らにあって田多く畑の少ない地で、二ヶ領用水がその水田を潤していた。陣屋町の名の由来は、この二ヶ領用水の大工事を担当した小泉次太夫が、陣屋を設け指揮をとった場所の名残りである。

原家は古くからこの地域の地主で、屋号を「石橋」といい、かつては肥料や油類の間屋を営んでいた。現在の当主・原正己氏は11代目となる。

◆ 建物概要

木造・二階建、入母屋造、棧瓦葺 延床面積 355.92㎡ 平面積 1階249.36㎡ 2階106.56㎡

正面に唐破風付きの式台と大戸口、大戸口を入ると土間、その一隅にオトコベヤ、土間の奥には板床のダイドコロがある。一階の床上は表側にアガリマ・ナカノマ・ザシキの3室、裏側にイマ・ブツマ・オンナベヤの3室、合計6室があり、その他に風呂場・便所もある。二階はオモテに3室、ウラに2室の部屋を設けている。一・二階の部屋の数、全部で11室となる。

幅1尺4寸の大黒柱を中心に二階まで達する通し柱は12本使われている。天井は竿縁天井・格



天井・根太天井・座敷には書院・棚・床の間を設けている。

◆ みどころ

明治24年頃から大正2年まで、20数年の歳月を費やして建てられた豪壮な民家。日本の木造建築技術が高度に磨かれた明治後半期の建造物。なお、この原家住宅は、本館の1棟として今年の夏頃公開を予定しています。また郷土の歴史民俗を学ぶ体験学習の場として活用するため、他の展示民家とは異なり、自由に床上にあがることができます。

【声】床の上やタタミの上にあがれないと家との一体感が感じられない。もっと自由に解放すべきである。数多くて管理するのが困難と思いますができるだけ明るく自由に入り、触れる所であって欲しいと思います。

（横浜市 33才 男性）

《本館建設》

急ピッチで進む本館建設工事

「日本民家園だより」第16号・18号においてお知らせいたしました本館建設工事は現在、急ピッチで進行しています。この本館は地下1階、地上2階、建築面積は506㎡、延床面積768㎡の建物です。外観から見ますと3棟の形態を取っています。その1つは運営棟、エントランスルーム・キップ販売所・事務室があります。2つ目は展示棟、民家建築の基本的知識や民家の生活に関することを解説する展示室があります。3つ目は研究棟、近世民家に関する研究や調査に関する研究室や閲覧室があります。

この本館の一般公開は、旧原家住宅とともに今年の夏頃を予定しています。

【同】貴重な文化財が川崎にあり、市民として誇りに思います。（川崎市 34才）



本館建設状況

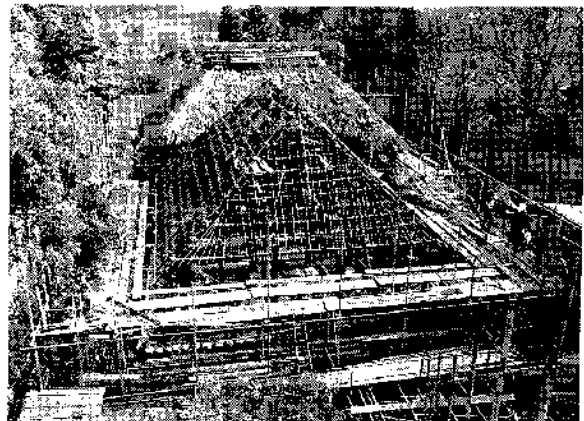
《太田家復旧》

旧太田家住宅復旧工事始まる

平成2年7月29日、生田緑地公園内で打ち上げられた花火が、重要文化財旧太田家住宅の茅葺屋根に落下し、主家が焼損するという大変不幸な事態が発生しました。川崎市では文化庁の指導のもと、直ちに火災及び焼損状況を調査するとともに、旧太田家住宅の復旧のために、建築史・防災・保存科学などの専門分野の先生による「旧太田家住宅復旧調査委員会」を組織し

ました。委員会では更に詳細な調査と審議を重ねた結果、旧太田家住宅を焼損前の姿に復旧する具体的な基本方針を示されました。これを基に平成3年度の秋、旧太田家住宅の復旧工事が始まり、平成4年度の秋の完成をめざすことになりました。

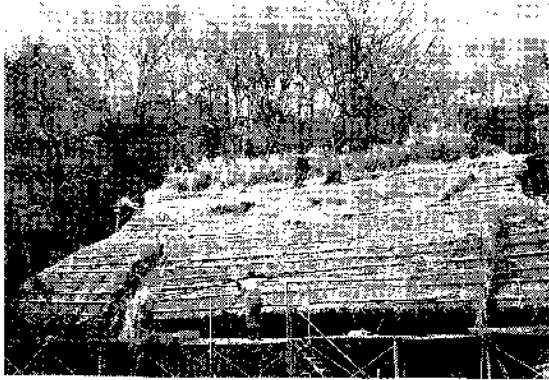
【同】こういうしせつがあると、とてもいいと思います。お父さんの話しによると、太田さんの家がいちばんきれいだったといっていました。やけてしまったのが、とてもごんねんだと思いました。（川崎市 10才 女子）



旧太田家住宅復旧作業

《園内整備》

ご不便をおかけしました



旧伊藤家の屋根葺替



旧山田家の軒下叩き



電気幹線の改修工事

【声】大変良かったです。建物のいたみがひどかったように思います。修復の予定はないのでしょうか。 （横浜市 27才 男性）

投書箱等で見学者の皆様からご指摘を受けていますとおり、日本民家園内の民家や施設などの破損箇所が随所に見られます。平成3年度においては、次のような整備活動を行いましたので、再度のご来園をお待ちいたしております。なおこの工事期間内に一部観覧の支障をきたしましたこととお詫びいたしますとともに、今後ともご協力とご理解のほどをお願い申し上げます。

◆ 民家の屋根なおし

- (1) 旧工藤家の屋根および箱棟の補修
- (2) 旧伊藤家の屋根葺き替え修理

◆ 民家の木部補修

- (1) 旧佐々木家の鼻隠し・吊り子等の修理
- (2) 旧山下家の鼻隠し・吊り子等の修理
- (3) 旧山下家の食堂の床補強

◆ 民家の土間補強

- (1) 旧三沢家の土間叩き
- (2) 旧佐々木家の土間及び軒下叩き
- (3) 旧山田家の土間及び軒下叩き
- (4) 旧野原家の土間叩き

◆ 電気幹線の改修

- (1) 宿場から信越の村までの改修
- (2) 放送設備の改修

◆ 園路の整備

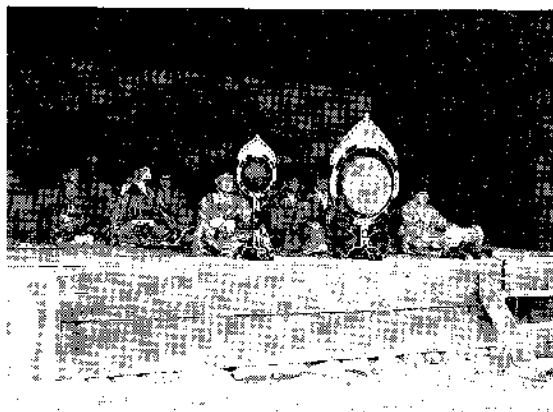
- (1) 出口門周辺の園路整備

◆ 垣根の補修

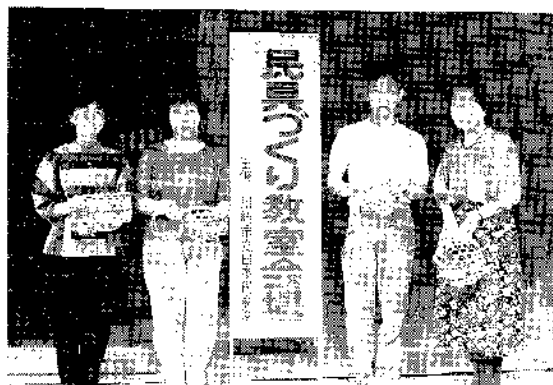
- (1) 水車小屋周辺の内柵、四つ目垣補修
- (2) 出口門周辺の外柵、四つ目垣補修
- (3) 舞台の外柵改修

《催事レポート》

【同】 民具などを実際に使ったり、体験できる時間などがあると、子供の教育に用いられると思います。（川崎市 28才 男子）



民俗芸能公演（高田興禅寺雅楽会）



民具づくり教室（竹細工）



民具づくり教室（草木染め）

平成3年度、日本民家園では次のような催し物を開催いたしました。多数のご参加をいただき有難うございました。来年度以降はさらに充実した催し物を心掛けたいと思っております。またのご参画をお待ち申し上げます。

◆ 日本民家園まつり〔5月2日(木)～31(金)〕

民俗資料展示（1日～31日）

民具手づくりコーナー（5日・12日・19日・26日）

民具着用体験（5日・12日・19日・26日）

民俗芸能公演（12日）

囃子・獅子舞（諏訪神社祭囃子保存会）

祝い唄「初瀬」（菅初瀬保存会）

沖縄民俗舞踊（川崎沖縄芸能研究会）

雅楽（横浜市・高田興禅寺雅楽会）

◆ 民具づくり教室

竹細工〔6月2日・9日・16日〕

（おしぼり置き、花器などの製作）

参加者3名

しめ縄づくり〔12月1日・8日・15日〕

（ゴボウジメ・玉飾り・ミニ門松などの製作）

参加者34名

草木染め〔2月23日〕

（紅茶・豆など台所で使用される物からの染め）

参加者24名

◆ 体験学習

郷土玩具づくり〔8月25日〕

（水鉄砲・風車などの製作）

参加者23名

十五夜団子づくり〔9月22日〕

（石臼での粉挽き、月見団子の製作）

参加者53名

小正月団子づくり〔1月12日〕

（石臼での粉挽き、団子の製作と飾り付け）

参加者23名

草団子づくり〔3月8日〕

（臼つきでよもぎ団子を製作）

参加者27名

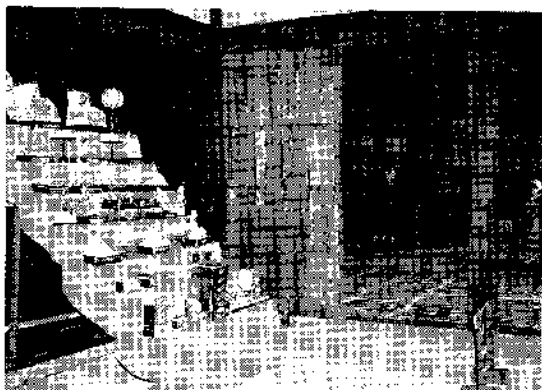


体験学習（小正月団子づくり）



手づくりコーナー（わら細工）

【月】夏に一度来たのですが、その時に一番びっくりしたのはお月見の展示があったことでした。
（町田市 10才 女子）



年中行事展示（三月節供）

◆ 手づくりコーナー

わら細工〔6月23日・8月25日・9月22日・3月22日〕参加者 119名

（足なかゾオリを中心に製作）

竹細工〔7月28日・10月27日〕

（編み方の基本作業、花器、風車など）

参加者52名

はた織り〔6月23日・8月25日・9月22日・3月22日〕

（はた織りの基本作業） 参加者98名

◆ 自由参加行事

わら細工〔11月3日〕

（足なかゾオリの製作） 参加者46名

◆ 年中行事展示

平成3年度、旧北村家住宅において次のような内容で年中行事展示を行った。

5月 五月節供 端午の節供ともいい、菖蒲やヨモギを軒下にさし、武者人形、武者幟り、鯉幟りを飾る。

7月 七夕 技芸の上達を祈り、また祖霊を祭る行事として、笹を立て短冊を吊るす。

マンガ洗 田植えを無事に終え、感謝と豊作を祈り、田植えに使用した用具を土間に供える行事。

9月 十五夜 旧暦8月15日の夜を十五夜・名月・お月見と呼び、団子を作り、ススキの穂等を供える行事。

12月 八日僧 ヨウカゾウ、メカリバアサン、目一つ小僧等ともいい、家の前に目籠を高く掲げ、悪魔よけをする行事。2月8日も行う。

1月 正月 元日を中心とする大正月。門松を作り、しめ縄を張り、年神棚をまつる行事。

小正月 1月15日を中心とする行事。マユ団子や削り掛け等をつくり、飾る予祝行事。

2月 節分 立春の前日の行事。外から邪気悪霊が入ってくるのを防ぐ日であり、また農作業の始まりともいう。家の出入口にヒイラギとイワシの頭を飾る。

3月 三月節供 上巳（じょうみ）節供・雛節供ともいい、内裏様を中心に雛人形を飾り、桃の花や白酒・菱餅を供える。

《実習生》

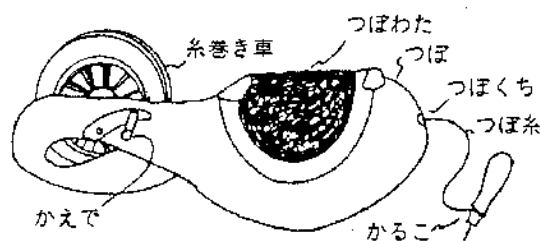
暑い中、ごくろうさまでした

平成3年度、日本民家園が受入れた博物館実習生は次の8名でした。実習生の皆さん、真夏の暑い中、ご苦労様でした。日本民家園の実習は、他館のように冷房のきいたコンクリート内では行えませんでした。この10日間よく頑張りました。

『平成3年8月28日（水曜日）晴 今日には200点ほどの大工道具への番号付けとそのカード作りであった。資料への番号付けは、学校の授業で練習したことがあるが、実際の現場で、生の資料に番号付けするのは初めてである。それだけに感激とともに、緊張もした。学校では番号なんて読めればいいと思っていたが、いざ現物資料を扱うと、それだけではなく、資料の性格や展示の仕方等を考えて、書き込む位置、大きさ、わかり易さなどを考慮しなければならないことを実感した。またそれだけに、これら大工道具に関する知識も身につけなければならないと思った。本日は暑い中で多量の細かい作業を行ったが、1つ1つ丁寧に仕事をこなしていくことの大切さを痛感した。』



博物館実習生



川崎市域博物館等連絡会が発足

〔目的〕 現在、川崎市域には博物館機能をもつ施設が公立及び民間をあわせると数多く存在します。それらの施設相互の連携と生涯学習の振興に寄与することを目的とします。

〔経過〕 平成3年7月24日（水） 設立説明会

平成3年9月11日（水） 設立総会

〔幹事会〕 この連絡会の幹事として次の6施設を選定、今後の具体的な事業計画を検討することになりました。

川崎市立日本民家園、川崎市市民ミュージアム、若宮八幡宮郷土資料館、東芝科学館、よみうりランド植物園、細山郷土資料館

《民技会だより》 会員の皆さん、頑張ってます

日本民家園育成団体の民具製作技術保存会（略称・民技会）は、昭和48年に発足しました。民技会は、伝統的な日常生活用具に関する製作技術を正しく習い、後世に伝えることを目的としています。平成4年度は日曜日を主体に次のような行事を計画しています。

◆ 全体行事

日本民家園行事への協力（春・夏・正月の体験学習、民家園祭り）

自作のゾウリで歩く会（春、伊勢原・大山神社）

自作のワラジで歩く会（秋、箱根街道）

民具着用体験 会員製作作品の展示会



全体行事（民具着用体験）

◆ わら細工グループ

グループ員が多くの製作技術を身につけていま

すので、各人の技術に対応したものを教わり作ることができますが、今年はムシロ、ワラジ、アシナカ、ゾオリ、雪ぐつ、わら馬、背当て、しめ縄の製作技術の伝承に重点を置きます。

◆ 竹細工グループ

竹細工は編むことは比較的容易ですが、その前の材料ごしらえに熟練した技術を必要とします。今年もその基本的な技術である材料ごしらえを中心として、六つ目かご、花かご、おしぼり置、菱四つ目かご、オミキノクチ、一輪ざし、風車等を製作します。

◆ はた織りグループ

ハタの台数が限られていますので、共同作業となります。はた織りは、そのハタに糸をかけるまでの整経作業の技術をおぼえることが基本です。今年はその基本作業を中心に高機（たかはた）・地機（ちばた）・染め物の製作技術の伝承を実施します。

◆ 研究グループ

手仕事の技術を、学術的なものとは違った、実技的な文章と図解で説明する技術指導書「民具のつくり方」は、現在までに34号の刊行を見ることになりました。今年度はモッコとバットリの技術指導書を発行する予定です。

民技会の会員募集

入会資格	どなたでも入会できます。
年間会費	20才以上 4000円 学生・19才以下 2000円 (グループに属すると、グループ費が別に必要です。)
会員特典	「会報」の送付、技術指導書「民具のつくり方」の会員価格提供、製作技術の無料講習、民家園入園料の免除等です。
入会方法	入会申込～入会申込書の記入～会費の納入～会員証の受取り
連絡先	川崎市立日本民家園内 民具製作技術保存会

TEL 044-922-2181 FAX 044-934-8652

《ありがとう》

平成2年度から平成3年度にかけて、次のかたがたから博物館資料のご寄贈をいただきました。ご協力を感謝いたしますとともに、随時、整理分類活動を行い、展示・研究資料として活用させていただきます。ありがとうございました。（順不同・敬称略）

- | | |
|------------------------------------|-------------------------------|
| 1 幸区遠藤町 中村 貞吾
エジコ、ソバキリ、ベンケイ等 4点 | |
| 2 中原区下小田中 鹿島 キミ
コロガシ、スイコ等 17点 | |
| 3 中原区上小田中 三浦 正雄
民家模型 4点 | |
| 4 宮前区有馬 久保田利一
張板、アイロン等 4点 | 10 多摩区長尾 鈴木 穆
膳碗、鍋、鉄瓶等 35点 |
| 5 宮前区野川 伊藤秀晴
米櫃、煙草盆等 4点 | 11 多摩区菅仙石 須田 成子
行李、蚊帳、盥 3点 |
| 6 宮前区菅生 杉田 盛
唐箕 1点 | 12 多摩区菅仙石 佐藤基次郎
藁製履物 2点 |
| 7 宮前区下作延 鈴木 四郎
カシマ人形 2点 | 13 多摩区生田 太田 顕
ランプ、脱穀機等 4点 |
| 8 多摩区枳形 斎藤 嘉一
背負梯子、セイロ等 5点 | 14 多摩区東生田 清水 正吉
火鉢、猫炬燵等 4点 |
| 9 多摩区長尾 たかだのりこ
寝具 1式 | 15 横浜市緑区荏田北 菊地 優
道祖神塔 1点 |



民家模型（武蔵小杉駅にて）

《タヌキ出現》

この写真を見た時は少々びっくりしました。普通は夜行性なのに昼間で、しかも写真まで撮られるほど悠然としている様子にです。

最近タヌキが都市に出没し、新聞やTVを賑わせています。生田緑地でも、目撃例が多く事故死体も発見されています。10数頭以上がこの公園内で生息していると思われます。雑食性で何でも食べますが、川崎のタヌキは食べ物の半分を人間の出す残飯に頼っていることが、青少年科学館の調査で分かっています。近くで餌づけしている民家もあり残飯を得るのに交通事故にあうケースも増えています。

このタヌキは、大雪の後で餌を求めて出てきたのでしょうか。無事に生田緑地で生活できていくことを祈ります。

（青少年科学館 木下あけみ）

- ◎ 山田民家園職員談 「大雪の翌日、民家園内の樹木の被害状況を写真撮影している時、突然に出現、おもわずシャッターを押しました。このような自然は大切にしたいですね」



「白昼堂々と民家園の中を歩くタヌキ」

1992.2.2. 15:25 工藤家近くにて

民家園職員撮影